

**全体目標:**内科診療における基本を身につけ、主な腎疾患を広く学び腎炎・腎不全患者の基本的な診療ができる

**個別目標:**

- 1) 尿検査の意義・解釈を述べることができる。
- 2) 生体内における水・電解質(Na, K, Cl, Ca, P など)バランスの意義・解釈ができる。
- 3) 以下の検査の意義・解釈・必要性につき述べるができる。
  - ・血算、生化学、免疫学的検査(ASO,免疫グロブリン,補体,抗核抗体,抗好中球細胞質抗体)
  - ・腎機能検査(GFR, Ccr, RPF, FENa, レノグラム)
  - ・腹部超音波
- 4) 病歴と一般的な検査から糸球体疾患の臨床症候群の中で以下のいずれかを診断できる。  
急性腎炎症候群、急速進行性腎炎症候群、反復性または持続性血尿症候群、慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群
- 5) 腎生検の適応を理解し、手技・合併症を述べるができる。また、穿刺者の介助をおこなうことができる。
- 6) 急性腎不全の病態を理解し、原因の鑑別について述べるができる。
- 7) 慢性腎不全(保存期)の治療(薬物療法、食事指導を含めた非薬物療法)について説明できる。
- 8) 末期腎不全患者の腎代替療法(血液透析・腹膜透析・移植)について理解し、それぞれの長所・短所を患者に説明できる。
- 9) 血液透析に必要なアクセス(動静脈シャント、カテーテルなど)の必要性を理解する。
- 10) 維持透析患者の病態および合併症について説明できる。

**方略:**

- ・病棟で5-8人程度の入院患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと受持医として診療に参加する。
- ・教授回診 週1回(木)。受け持ちの入院患者に関してプレゼンテーションを行う。新入院の患者はその病歴から身体所見・検査所見にいたるまでをまとめた上で、今後の診療方針について検討する。  
すでに入院中の患者については入院後の経過をプレゼンテーションし、方針の確認を行う。
- ・透析回診 週1回(月)。受け持ちの入院患者が透析患者の際は、その患者の現状についてプレゼンテーションを行い、治療方針の確認を行う。
- ・腎生検 基本的に火曜午後。腎生検の準備を行い、検査中は検査の介助を行う。
- ・腎生検カンファレンス 週1回(月)。病理部との腎生検病理カンファレンスに参加し、受け持ちの腎生検施行症例について臨床サイドからのプレゼンテーションを行う。
- ・その他、勉強会や研究会に積極的に参加し見聞を深める。また、余裕があれば透析室で上級医・臨床工学技士の業務介助を行いつつ血液浄化療法の実際について学ぶ。

**評価:**

- ・EPOC IIによる評価を行う。
- ・修了時に評価表(研修医経験内容に関する自己評価、腎臓内科指導体制等に関する評価を記載)を提出。
- ・ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う。